

## 山形大学紀要(自然科学)論文原稿作成上の注意

I. 原稿の記述は表題, 執筆者名, 欧文要旨 (Abstract), 本文及び文献の順序とする。

執筆者の所属は第1ページの脚注に記述する。(IV. 4) 参照)

### 1) 和文の場合

ワープロソフトを利用の上, 作成する場合は, A4判, 横書き (34字×40行) で, 手書きの場合は山形大学紀要規定の原稿用紙を用いること。文章は新しい国語表記により, できるだけ常用漢字を使用する。欧文要旨は本文の前に記載し, 10ないし20行程度以内にまとめ, Abstract という見出しをつける。

### 2) 欧文の場合

A4判用紙の片面に, 周囲約3cmの空白を残して2段送りにプリントすること。欧文要旨は本文の前に記載し, 10ないし20行程度以内にまとめ, Abstract という見出しをつける。ただし執筆者の希望によっては, 欧文要旨はつけなくてもよい。

II. 原稿には表紙をつけ, それに投稿する紀要名 (自然科学), 論文表題, 執筆者名, 所属, 欄外見出し用の略題 (和文: 30字以内, 欧文: スペースを入れて60字以内), 原稿枚数 (表紙を除く), また, 表, 図がある場合はそれらの枚数を列記する。なお手書きの場合, 使用する特殊な活字・字体 (ギリシャ文字, ドイツ文字, イタリック, ローマン等) があるときはその旨付記すること。

表紙をつけた論文原稿 (オリジナル) とそのコピー2部を作成すること。

なお, ワープロソフトを利用の上, 作成した場合は, 電子媒体に保存すること。

## III. 表及び図について

1) 表及び図は, 一つずつ必ず別紙に, 直接版下として使用できる品質で描くこと。各葉に表又は図の説明をつけ, 第○表, 第○図, 執筆者名を付記すること。

2) 図面の大きさは刷り上がり寸法の1.5~3倍とし, それぞれ希望縮尺を記入すること。

3) 方眼紙を用いる場合は, 淡青色のものに限る。

4) 本文中の原稿用紙の右側余白に, その図及び表の入る箇所を赤色の字で記入すること。

## IV. 文献について

1) 文献の記述は次の形式とする。雑誌は, 執筆者名, 表題 (省略可), 雑誌名, 巻数又は号数, ページ, 発行年を記載する。単行本は, 執筆者名, 題目, 発行所名, 発行場所, 発行年を記載する。

2) 雑誌の略記は学会の慣例などによること。

3) 文献の引用記号は, 自由形式とするが, 通し番号の場合もそうでない場合もいずれも

[ ]で表す。

(例 1)

[1]伊藤昭, 密度効果とこみあい効果, 生物科学, 25, 35-42, 1973.

[2] B. Maskit, Decomposition of certain Kleinian groups, Acta Math., (302), 43-263, 1973.

[3]朝永振一郎, 量子力学, みすず書房, 東京, 1965.

(例 2)

[LOP47] C.M.G. Latters, G.P.S. Occhialini, and C.F. Powell, Nature 160, 453-455, 1947.

[Weh73] B.A.F. Wehrfritz, Infinite Linear Groups, Springer, Berlin, 1973.

(例 3)

[Davis 1983] Davis, J.H., Biochim. Biophys. Acta, 737, 117, 1983.

[Janiak et al. 1979] Janiak, M.J., D.M. Small and G.G. Shipley, J. Biol. Chem., 254, 6068, 1979.

- 4) 文献でない備考・注などは, \*, \*\*などを右肩につけ説明を脚注とし, その原稿用紙の下部に書くこととするが, 本文中の脚注による記述は可能な限り避けること。

## V. 最終原稿の調整

- 1) 掲載が決定した原稿は, 電子媒体に保存して提出することができる。
- 2) 印刷にそのまま使用する版下を作成し, 提出することもできる。ただし, 編集委員会において, 印刷後の体裁・品質等が従来の印刷と比べて同等と認められるものに限る。